



平成20年10月7日(火)
甲斐市立敷島小学校
学校長 山中 長壽

熱く、ひたむきに 一人一人がかがやく ～ 秋季大運動会～

本校の秋季大運動会が9月27日(土)に行われました。前日降雨となり当日の天候が心配されましたが、幸い朝から秋空が広がり、絶好の運動会日和となりました。ご家族の皆様、地域の方々など大勢の皆様方にご来場いただき、子どもたちのがんばる姿に盛んなご声援をおくっていただきました。

子どもたちは、この日のために、2学期が始まって以降一生懸命種目練習に取り組んできました。時には残暑の厳しい日射しが照りつける中、体育の時間や休み時間あるいは放課後等の時間等を使って、1年生～6年生までそれぞれが額に汗を浮かべ、大きな声をかけ合いながら競争競技や集団演技の練習に取り組んできました。

色別対抗競技の練習において、5・6年生が下級生を一生懸命リードする姿が目に残っています。それに応えようと、下級生が必死になって練習に取り組む姿も印象に残っています。子どもたちはそんな取り組みの成果を、この日存分に発揮し、グラウンド一杯に一人一人が精一杯がかがやく、赤組、白組それぞれが固い団結力を示しました。

1・2年生は、銀色のポンポンを両手にグラウンド一杯にリズムカルに集団演技「Dreams come true」を発表しました。元気さと一生懸命さとそのけなげさとで、見る人たちに秋空のようなさわやかさを届けてくれました。

一方、黒Tシャツにねじりはちまき、鳴子を両手に力強く気のこもった演技を披露した3・4年生の「らっしょい わっしょい 甲斐の華」。「イヨー、日本一ッ!」のかけ声も勇ましく、グラウンドを大きな元気で一杯にしてくれました。

5・6年生の組み立て体操、これはもう見事というほかはありません。2人1組の倒立から30人を超える人数のピラミッド、連続サボテンまでの種目を、軽快な音楽に乗り、グラウンドを大きく効果的に使って展開したその演技には、リズムの美、統制・均斉の美があり、緊迫の美がありました。演技終了後の会場は大きな拍手と感動に包まれました。

もちろん、各学年ごとの競技やリレーにおいても白熱した戦いが展開されました。ことに赤白別の得点種目では、競技している児童ばかりではなく、応援する子どもたちも学年の枠を越え、赤組、白組それぞれ一体となり、声を涸らさんばかりに応援していました。

自校の子どものことながら、どの子も一生懸命、熱くひたむきに競技や演技に取り組む姿に、胸が熱くなりました。

運動会が終わって間もなく、学校長宛に一通の手紙が届きました。本校にお孫さんが通学しているという女性からのお手紙でした。「……一人の落伍者もなく、みんな力いっぱい頑張っている姿を見て生きる力をもらいました。……ひとつ残さず全種目をしっかりと見せていただきました。……子どもってすごいね。……」

保護者の皆様からご回答いただいたアンケートの中にも、感動的な運動であったとの感想を多く寄せていただきました。ありがとうございました。改めてお礼申し上げます。

子どもたちと職員とで作ったこの運動会の成功を糧に、これからも教育活動の充実に努めてまいりたいと思います。



本校では現在、集団登校を行っており、保護者の皆様には安全確保のために主要な交差点に旗振り当番として立っていただいています。また、老人クラブを主とした地域の皆様方にも、登下校の時間帯に合わせて見守り活動をしていただいています。

さて、そうした中で本校正門前横断歩道における過密状態が大変危惧される状況にあります。10月1日現在本校には420名の児童が在籍していますが、その内のおよそ80%の児童が本校正門前の横断歩道を南側から横断して登校しています。私も4月赴任以来、教務主任とともに毎日その横断歩道に立ち交通安全指導をしておりますが、その中で把握している登校状況は次のとおりです。

- ・学校正門前横断歩道の信号は青信号時間が20秒ほどしかなく、山手通り南側地区の児童数の増加により横断時は過密状態になっている。
- ・道路南側の待機スペースは極端に狭いため、児童は横に広がって待たなければならない。このため信号が青になると同時に横断を急ぐことにもなる。
- ・青・黄から赤信号への変わり鼻に、無謀な車が横断歩道を通過し、危うく児童が跳ねとばされそうになったことが、4月以来3回発生している。幸い、私どもの制止や子どもたちの自己判断で偶々車道に一步を踏み出さなかったために難を逃れることができた。
- ・特に、傘をさす雨の日の待機と横断は、傘で前方が見えにくくなるために危険性が高まる。
- ・歩道の南は空き地になっており、境界がバラ線で仕切っているため、服や学用品、腕等をバラ線に引っかけることもある。

こうした状況を改善するために、学校では甲斐市教育委員会に対し、

- ①学校正門前横断歩道青信号時間の延長
- ②道路南待機場所歩道の拡張

について関係者・関係機関に働きかけていただくよう、ここ数年継続して要望してきました。しかしなかなか展望が開けません。外部関係者への働きかけだけでは改善の方向は見えてきません。しかも現状は、児童の安全確保に不安を抱えたままです。

そこで学校では、自助努力による改善策として、登校時間帯における正門前横断歩道の一極集中を緩和するために、**通学路の一部見直しについて検討**を始めています。

その内容の中心は次の2点にあります。

- ① **学校より西の山手通り北側に在住する児童**は、山手通り北側歩道を東進して正門から登校する。
 - ・学校より西の山手通り北側に在住する児童のうち約40名ほどは、現在、「敷島総合文化会館入り口交差点」（デイリーストア前）及び「西町交差点」で一度わざわざ山手通を横断して南側歩道に移動し、そこから東進して敷島小校門前まで来てそこで再び横断歩道を渡って登校しています。これを山手通りを横断せずに、そのまま東進するように改めたいと考えています。
- ② **山手通り南側に在住する児童**を従来通りの①正門前横断歩道を渡るグループと②別の信号のある交差点を北に渡って東進するグループとに分ける。
 - ・②の別の信号のある交差点とは、「敷島総合文化会館入り口交差点」（デイリーストア前）及び「西町交差点」を考えています。

検討を始めるに当たっては、過日（9/12）のPTA運営委員会で概略を説明し、検討していくことについてご理解をいただいたところです。

よりよい改善策を得るために、今後は、保護者の皆様から幅広いご意見をうかがうとともに、実際の交通事情や該当する交差点の状況を精査したり、関係機関の意見を求めるなど慎重に検討してまいりたいと考えています。保護者の皆様方のご理解とご協力をお願いします。